

巖穴の心を抱く者にして、以て台閣に居る可く、礼楽の実を得る者にして、以て将帥に任ず可し。

『言志四録』 佐藤一齊

國の支え

(題字揮毫・中井信夫元大阪府議会議長)

関西防衛を支える会 (略称・関防会)

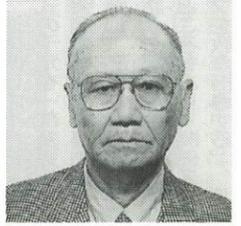
〒540-0012 大阪市中央区谷町2丁目7番6-605
TEL 06-6947-0831
発行人 高橋李義
編集人 新川貞敏
印刷所 ㈱新聞印刷

第3号

(夏季号)

平成12年7月1日(土)
(皇紀2660年)
(大正紀元89年)
(昭和紀元75年)

日米安保は手段か、目的か



小淵首相がたのんだという「二十一世紀日本の構想」(座長・河合雄雄国際日本文化センター所長)の懇談会の報告書が、さんざんの不評である。

肝心の小淵さんが倒れて亡くなったから、報告書もそのま柵上げされ、ほりをかぶるまま放りたおかれよう。まずはよかったです。

とはいえ、二十一世紀を「個人の世紀」と平気でうたいあげるような感覚は、ことによる現下日本の政・官・学的主流——つまり、榊原英資氏が「歴史意識のかけた世代」と呼ぶ昭和二世の世代——にゆきわたっているのかも知れぬ。やはりいじり点を批判しておかねばならぬ。特に国の安全保障、はつきりいえば国防問題について。

「報告書が二十一世紀において何の疑問もなく日米同盟を前提としていること……日米安保が大事なことはよくわかるのですが、それはあくまで日本という国を存立させてゆくための手段であって、目的ではないはず」

は、本来「多面的なシナリオの中で」国益を考えねばならぬ。「アメリカはシナリオ次第でいつでも選択を切り換えられるように準備している。ところが日本にはそういった発想は全くありません。日米関係がなくなっても、あるいはアメリカがこの世界から姿を消滅しても、わが国は存続してゆかなければならない」と福田氏のいうことは厳しくなる。私見では実に正鵠を射た発言である。かくいう私自身が、今の防衛庁や自衛隊の然るべき人々に「ほんとうに福田氏の言うとおりで、日本にはそういった発想は全くないのか」と訊きたいのだ。

私は「朝雲」という新聞の性格をよくは知らないのだが、その社説では、このような根本的な課題に対して一体どういう姿勢をとっているのだろうか。いじりその方面に詳しいお方にこの誌上で教えていただきたいと考えている。

「分裂があり得る一つの世界」

以上はこの文章のマクラである。私のいいたいことは別にある。それは世界はこのままスナリと二つに分れてゆくのだろうか。分裂して、はげしく争い合うことはないのか、ということ。

前の方の想定は、いま、日本に有力である「グローバリズム」だ。物事を真剣に考えない人々、なるべくこのままにまっしぐらにいたいという、怠惰で安易な人々には好都合な想定である。しかし日本の国防をこの種の無責任な連中に任せてお

『平和主義』と『帝国の知』と

車には両輪が必要だ

相談役 (東アジア研究専攻) 鈴木満男

分裂があり得る一つの世界

く、しかも鋭い。——であるならば、わが国の「地球は二」論者には、勝馬馬について勝ッた勝ッたを騒いでいる、いい気な野次馬の軽薄さを見て取るべきだろう。積極的に新しい世界秩序の形成にとり、むき意欲もなく、構想もないのにも関わらず、である。

河合雄雄懇談会の報告の基調、「個人の世紀」という個人礼賛・国家軽視の気分はまさに、この軽薄さを映し出す。それは戦後日本の半世紀を貫く反国家思想の延長上にある。真に新しいものはそこには絶無だ。

さて、レイノルズは書けないことは勿論だろう。折しも米国でもいろいろ本が出版された。題して「分裂があり得る一つの世界」、著者はレイノルズ (aid Bergin)。副題に「一九四五年後の地球史」とある。

九百頁に近い大著であるが、要点はその題名にいいつけられている。現在、弁証法的に同時進行しているのは、統合の進む一方で分裂も同じく進んでいる、という事だ。

グローバリズム、つまり「地球は二」思想の根元には、ソ連との冷戦をかちぬいた米国の勝ッた勝ッたという気分があり、傲りがある。そうレイノルズは指摘する。この指摘は面白

内憂について外患。台湾問題あり、ティベットの問題あり、新疆のウイグル問題あり、である。そのほか、モンゴルをはじめとする国内の五十以上の少数民族問題がある。かつての「中華帝国」の現代版である現代中国。それがいつまでも昔ながらの帝国体制を維持してゆけるものかどうか。

とはいえ、私は中国に対する米国流の「人権外交」を嫌悪する。出しゃばってむやみに他国の事情に口を出すな、といった。それは日本国内の人権論者の身勝手と独りよがりに通じる無責任さがある。いま中国に最も必要なのは「安定」だ。いわゆる「人権」ではあるが、なんという愚か

中華帝国は変容する?

法輪功のねづよい政府批判は、北京の手とどこかぬ

内憂について外患。台湾問題あり、ティベットの問題あり、新疆のウイグル問題あり、である。そのほか、モンゴルをはじめとする国内の五十以上の少数民族問題がある。かつての「中華帝国」の現代版である現代中国。それがいつまでも昔ながらの帝国体制を維持してゆけるものかどうか。

とはいえ、私は中国に対する米国流の「人権外交」を嫌悪する。出しゃばってむやみに他国の事情に口を出すな、といった。それは日本国内の人権論者の身勝手と独りよがりに通じる無責任さがある。いま中国に最も必要なのは「安定」だ。いわゆる「人権」ではあるが、なんという愚か

さて今後、世界はどうなるかといえば、ショウクロスの新著を思い出すにいい。その書名である『我々を邪悪から救いたまへ』というのには、なにやら聖書的な(しらべてみた)らマイ伝からの引用だった。悲観的だが、その内容がまさにそれ。副題の「平和維持軍、戦争屋、そして世界は果てしなく衝突をくりかえす」の示唆するところである。

著者のショウクロス (Shan Showcross) は、国連事務総長のコフィ・アナンと共にアフリカ・バルカン半島などを広く見てまわるといって、いままれな経歴をもつ。「ミレニアム(新千年紀) などといって浮かれてはいられぬ十分な理由があった。

彼はみてまわった。カムボディアからボスニアへ、ソマリアからシエラ・レオネへ、ルアンダからコンゴへ、イラクから東ティモールへ……。それらのどこでも、彼は争いが起り、多くの人命が無様に奪われるのを見た。

と云ってショウクロスは国連の職員に同情的だ。彼らは各国政府が出すあれやこれやの要求を聞かねばならぬのに、そのための手段はめったに与えられない。しかも責任は彼らに負かなくていい。彼らに取られる、それが彼らに負かなくていい。彼らに取られる、それが彼らに負かなくていい。

人類は際限もなく争いをくりかえすだろう

さて今後、世界はどうなるかといえば、ショウクロスの新著を思い出すにいい。その書名である『我々を邪悪から救いたまへ』というのには、なにやら聖書的な(しらべてみた)らマイ伝からの引用だった。悲観的だが、その内容がまさにそれ。副題の「平和維持軍、戦争屋、そして世界は果てしなく衝突をくりかえす」の示唆するところである。

著者のショウクロス (Shan Showcross) は、国連事務総長のコフィ・アナンと共にアフリカ・バルカン半島などを広く見てまわるといって、いままれな経歴をもつ。「ミレニアム(新千年紀) などといって浮かれてはいられぬ十分な理由があった。

彼はみてまわった。カムボディアからボスニアへ、ソマリアからシエラ・レオネへ、ルアンダからコンゴへ、イラクから東ティモールへ……。それらのどこでも、彼は争いが起り、多くの人命が無様に奪われるのを見た。

と云ってショウクロスは国連の職員に同情的だ。彼らは各国政府が出すあれやこれやの要求を聞かねばならぬのに、そのための手段はめったに与えられない。しかも責任は彼らに負かなくていい。彼らに取られる、それが彼らに負かなくていい。

逆には、評価がこたに悪いのが米国のクリントン大統領である。身勝手、無責任だといふのだ。彼のへま

はボスニアだけではない。(込み入っているので詳しい説明はこたに省く。)

米国はソマリアに出兵した。だが米軍兵士に被害が出る唐突に撤兵した。ためにソマリアの状況はかえって悪化した。ソマリアの場合、当然地上軍を出さねばならなかった。しかるに米国はこれを拒否した。ためにセルビアに対する空爆の一本槍となる。

自国のイメージを他国の国造りに押しつけるな

どつちも陰気な予測になつた。ショウクロスがこたに悲観屋なのではない。彼らに取られる、それが彼らに負かなくていい。

逆には、評価がこたに悪いのが米国のクリントン大統領である。身勝手、無責任だといふのだ。彼のへま

はボスニアだけではない。(込み入っているので詳しい説明はこたに省く。)

米国はソマリアに出兵した。だが米軍兵士に被害が出る唐突に撤兵した。ためにソマリアの状況はかえって悪化した。ソマリアの場合、当然地上軍を出さねばならなかった。しかるに米国はこれを拒否した。ためにセルビアに対する空爆の一本槍となる。

そのマイナスの効果は数多い。ミロシェビッチは依然として権力をにぎったままだし、コンボ地区の占領はいつ果てるとも見通しがたため。「民族浄化」は現在も止まないが、その方向は正反対で、いまセルビア人が被害に遭っている。

(コンボ事件の前半分は日本の言論もよく報道した。しかし、後半の、米国に都合な部分になると、一転して類かむりした、というのが私の印象である。まちがっているだろうか。読者にお尋ねしたい。)

彼らに取られる、それが彼らに負かなくていい。

航空自衛隊 小松基地 ブルーインパルス見学会の御案内

日時 平成12年8月26日～27日
1泊2日 (片山津温泉、白山荘宿泊)
費用 25,000円
定員 40名 (先着順)
受付 弊会の理事、常任理事または事務所へ
備考 詳細はお申し込みの方へ別紙郵送致します。



沖繩への 三度目の赴任

航空総隊司令部の運用幕僚として府中基地で勤務していた平成十年十二月、上司から「宮古島分屯基地の警戒群司令」としての勤務を打診された。

以前から切望していた職務であり、勿論回答は「OK」である。

沖繩勤務は、昭和六十一年から六十二年までと平成四年から六年までの二回、計四年余りの経験があり、その際の任務の厳しさはあったものの、沖繩独特の緩やかな時の流れと南国情緒溢れる雰囲気を感じた者としては、第二の故郷のような懐かしさに、胸をときめかせつつ三度目の沖繩への赴任辞令を受けた。

平成十一年一月十四日、家族を東京に残し(やや羨ましがらる)空路沖繩本島経由で宮古島に向かう。途中、那覇基地に立ち寄り、上司への赴任報告を短時間で終え、新設された宮古空港に到着したのは夕方五時過ぎ。厳寒の東京とは異なり、宮古島では至る所に陽春の気配を感じた。

宮古島分屯基地 地への初登庁

翌十五日、宿舎から官用車で基地に向かう。

国防の最前線 南の島の防人便り

第五十三警戒群司令 二等空佐 武富 龍治

基地到着後、各隊長から基地の沿革、人事状況、各隊の任務、保有装備品等について報告を受ける。

引き続き、基地内の状況を实地に確認した後、所属全隊員を前にして群司令としての勤務方針等を示し、航空自衛隊の中で最南西端の基地である宮古島での勤務が始まった。

宮古島所在地自治 体への表敬訪問

航空自衛隊の中でも、防務任務を遂行する上で極めて重要な位置を占める宮古島分屯基地は、創設以来二十六年を経過していた。

部隊の精強化のためには、隊員一同の精進努力はもとより、基地周辺の自治体及び住民の理解と協力が不可欠と考え、着任早々、宮古島に所在する市町村(一市二町三村で構成)の首長を表敬訪問し、自衛隊への継続した支援、協力を願う。

沖繩といえば、先の戦争での体験から自衛隊への対応は厳しいものと思われていたが、この宮古島においては、いずれの市町村長も国防の重要性を深く認識され、我々に対する期待には高いものがあった。より強固な態勢を維持しなければとの決意を新たにす。

自衛隊協力団体 との初会合

いたこと、また、沖繩戦の際、宮古島の飛行場から特攻機で出撃し、自らの命を祖国に捧げた若者がいたこと等を聞き、感慨無量であった。――会章――

着任して三日目の夕刻、宮古地区自衛隊協力団体(協力会、父兄会及び隊友会)があり、現在五百名余りが活動中)との懇親を深めるべく、各隊長同伴のもと協力会主催の夕食会に参加する。

メンバー各位にあつては、その話の内容から、国境近

傍に位置する宮古島の重要性を認識しており、国防への関心度が高いことを感じた。また、宮古島分屯基地の創設当初から自衛隊を積極的に支援、協力してきた方々で、沖繩返還直後の部隊展開当時の苦勞話に大いに感銘を受ける。

「オトリー」の 洗礼

戸の身にとつては先が思いやられた。しかしながら、宮古島で勤務していくには、多くの方と交流の機会をもち、コミュニケーションを確保することが必要と考え、宮古島における文化と

もなっている「オトリー」の修行に精を出す。(ただし、未だ初心者域を出す。)ちなみに、市町村長に「自治体の長としての職務

らから、最も高いところで一〇〇m余り。また、川が流れていないために赤土の流失がほとんどなく、色鮮やかな珊瑚に彩られたエメラルドグリーンの海が素晴らしい。

このことは、近年、沖繩周辺の外国の航空機の活動が活発化している状況を如実に表している。

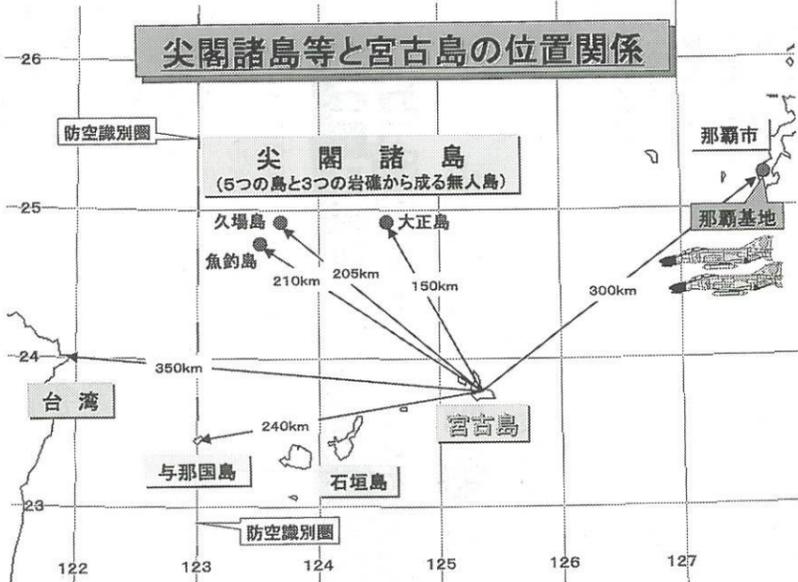
「この書物を『ニューヨーク・タイムズ』紙上で批評したのは、かつてソ連大使だった米国の外交官である。彼の対策は微妙にショウワロスとくわいがある。

「国際機構」とか「平和」とか「人道的」とか、耳あたりのよい語句が並んでいる。だがその実態となれば、各強国間のすさまじい駆け引きになるだろう。その点を私はこの文章で暗示したつもりである。で、これまで日本政府、日本外交が長年そうしてきたように、どうするのをもっとも簡単か、無難か、どうすれば米国の御機嫌をそこねないか、等々といった姑息な考慮だけで済むはずがない。「自衛隊のための軍隊」とは奇態な表現で遠からず「国軍」となるだろう。兵士の生命が、そこに関わってくるのだから。姑息な考慮ゆえにムササと命を捨て

断じて許してはならないのである。(傍点は鈴木) 「平和主義」だけではすまぬ。日本文明と日本人の理想を、現実へと結びつけるべき「帝国の知」が、つまり冷徹な国際認識と果敢な決断が、どうしてものだ。

「……日本国は、確立された国際機構の活動に、積極的に協力する。必要な場合には、公務員を派遣し、平和の維持及び促進並びに人道的支援の活動に、自衛隊の一部隊の一部を派遣することが出来る」(傍点は鈴木)

「追記」 河合雄雄懇談会のトングモナイ実情が判った。会には川勝平太のような私の敬重する研究者も入っていたので、報告書の内容にはいかにも解せぬものがあった。その川勝が暴露した「論座」五月号。それによれば、山本正(日本国際交流センター理事長)という男と彼の部下が事務局を一手に握り、問題の「総論」を實質的に執筆したという。山本某をこんな重要な地位につけたのは船橋洋一(朝日新聞)だ。左翼や反日主義者の劣勢がはつきりしてきた現だが、こんなアナ



尖閣諸島等と宮古島の位置関係

ななお余談ながら、この会合において噂で漏れ聞こえていた「オトリー」(会参加者全員が一人ずつ順番に全部員にお酒(泡盛)を酌して回り、それを一気に飲み干してもらうというもの。参加者が二十人の場合は、最低二十杯飲むことになる。)を初体験した。その成果は、会終了間際から翌朝目覚めるまでの間の記憶が鮮明だったことであり、下の

「その針路等から領空を侵犯するおそれあり」「DC(防空指令所)から通告(針路変更等のアドバース)を実施」

「針路に変更なし、依然として領空に接近中」これは、つい最近、彼我不明機を探知したときの運用室でのことである。沖繩周辺空域でのスクランブル回数が増加していること、また、海上保安庁による尖閣諸島周辺の外国船取り締まりが後を絶たない現状は、沖繩周辺の領域

宮古島で一年 余り勤務して

宮古島とはこんな所。宮古島は沖繩本島(那覇)から南西三〇〇kmに位置し、周囲が一〇〇km余りの珊瑚礁に囲まれた島である。

全うするために最も必要なのは「オトリー」(会参加者全員が一人ずつ順番に全部員にお酒(泡盛)を酌して回り、それを一気に飲み干してもらうというもの。参加者が二十人の場合は、最低二十杯飲むことになる。)を初体験した。その成果は、会終了間際から翌朝目覚めるまでの間の記憶が鮮明だったことであり、下の

「その針路等から領空を侵犯するおそれあり」「DC(防空指令所)から通告(針路変更等のアドバース)を実施」

「この針路等から領空を侵犯するおそれあり」「DC(防空指令所)から通告(針路変更等のアドバース)を実施」

「その針路等から領空を侵犯するおそれあり」「DC(防空指令所)から通告(針路変更等のアドバース)を実施」

最後に、自衛隊に対して暖かい支援と協力を頂

南の島から祖国の平和 と安全を祈って

最後に、自衛隊に対して暖かい支援と協力を頂

前言

昭和三十八年三月、防衛大学を卒業して九州は久留米の陸上自衛隊幹部候補生学校で一年間ミッチリと歩兵魂を叩き込まれ職種普通科を選び、最初の任地である北海道名寄へ向かった。

一つのシヨック

着任草々の部外への挨拶廻りをした際に私は一つのシヨックを受けた。第一のシヨックは、部下から「団長これで挨拶廻りは終わりです」と報告を受けました。

この間・師団・方面・陸幕で幕僚勤務、及び防衛大学、幹部学校教官を務めたが何故か出身地の愛知県で勤務する機会は無かった。

それぞれの勤務地で素晴らしい上司、先輩、同僚、部下、後輩に出会えて感謝の自衛官人生であったが、とりわけ最後の勤務地沖繩では私の最も信頼する防大同期生の佐藤守南混成司令と一緒に勤務できた事は幸運であり宝物のように思っています。

第一混成団へ着任

平成七年七月一日、希望に胸ふくらませ沖繩に入り、まず最初に摩文仁の丘に妻と共に参拝、戦没者の冥福を祈った。

着任にあたり統率方針として「精強さのあくなき追及」と「地域との一体感」を示した。「精強さのあくなき追及」では第一混成団は不発弾処理と緊急患者空輸の練度は高いが訓練環境は劣悪であり、あらゆる場を活用して野生的実戦的訓練に努める必要性を強調した。また「地域との一体感」では、沖繩は先の大戦に於いて過酷な体験を持っており、縁あってこの地で勤務する者としては、先、県民感情を理解することが大切であり、県民の心を大切に努めたい旨を申し述べた。

から言ったじゃないですか…止めましょう」と意見が具申して来た。勿論、挨拶回りは続行したが相手ばかり非を求めただけでなく、自衛隊側にも反省すべき事もあるのでは、と考えさせられた。

私は沖繩勤務では意識的に革新系首長等と接触してきました。こちらがアプローチしない限り相手はなかなか口を開きませんので、大田知事を始め那覇市長、沖繩市長、琉球新報社長、沖繩タイムズ社長、沖繩テレビ社長等々、それぞれ素晴らしい持ち味の人々で教えられる事が沢山あり、誠に「直」についての県民投票

反対運動の中心となっていくが、彼等には生活がかたっていない状況下で行動している事を忘れては実情が見えて来ません。平成七年九月、米海兵隊員少女暴行事件を契機として、反米、反軍闘争が一気に盛り上がりを見せ、戦後五十年目の節目という事もあり連日、新聞、テレビ等は異常な程この事件を報道した。

偏向する報道

昭和四十七年五月十五日沖繩が復帰して以来、陸海空自衛隊が配置された。第一混成団は不発弾処理隊を以て不発弾処理を行い二万三千八百一回出動、約千三百二十五トンの不発弾を処理した。

沖繩勤務回想



元陸将補 村田 秀 信

最大のネックは、沖繩は農地改革がなされていないが、大地主が存在し、持つ者と持たざる者の格差が大きく富の分配が不公平になっている事です。

反戦一坪地主

軍用地主、三万二千名の内二万九千一百人(総面積の九九、八%)が基地提供に賛成して、二千九百名(このうち一坪反戦地主が二千八百名で、地主らしき人々は約百名)が反対しています。一坪反戦地主が

出で新聞、テレビ等の報道となった。その反響は部内外を含め色々あったが、とりわけ佐藤南混成司令とローリングス米海兵隊司令官から賜った激励の言葉は大変に有難く心に深く残っている。

嵐の中に殉職した緊急患者空輸隊員

八月に那覇市内のある会合で私は「県民の意思を問うことについては何等問題は無いが、国家安全保障の基本となるような内容はテーマとして馴染まないし、既に橋本総理とクリントン大統領が合意しており、更に県民の代表である県議会でも、基地の整理、縮小が全会一致で可決されている設定内容に具体性が無く、今なせ改めて県民の意思を問うのか分からない」と語ったところ「県民投票は無意味なもので、私は大田知事に

離島防災訓練

私は阪神淡路大震災の発生から半年後の七月に沖繩勤務を命ぜられ着任した訳ですが大小五十の有人島からなる沖繩島の地理的特性から災害派遣に際しては、救助活動を極めて困難なものにする。この為、災害派遣を任務の一つとする第一混成団としては昭和八年(一七七年、死者一万二千名)の大津波の歴史的教育もあり常日頃から防災訓練を推進し、いざと云う時に済々とした救助活動を可能にしておく必要がある、と考えた。その為、着任以来大田知事に対して三年か五年に一回は沖繩本島のみの防災訓練では無く、離島の防災訓練を実施すべきであると訴えていたが、反応は一つであった。やむなく私が直接、石垣島の大濱市長、宮古島の伊志嶺平良市長に対し、離島防災訓練の必要性を訴えた。出れば、沖繩本島から一番離れた石垣島で実施したかったが市側の反応が出てこなかった。そこで平良市長との調整を推進し平成八年九月実施の運びとなった。

知事の決断

私は早速電話で伊志嶺市長に対して理由を尋ねた。歯切れの悪い返事を聞く中で、県から横槍が入り防災訓練が実施出来なくなった状況を察知した。そこで自衛隊単独で防災展示訓練を実施して宮古の人達に、その能力を見ていただいた方がいい、と伝えた。すると暫くしてから訓練場所の提供を断って来た。私が大田知事に県の関与の程を尋ねると、知事は「団長、そんな馬鹿な、私は何も聞いていない、確認して連絡します」との事であった。暫くして知事から連絡があり、今度は県が主体となって宮古六市町村の参加を得て当初案より拡大した訓練を実施する事が出来た。

の沖繩県総合防災訓練が初めて石垣島で実施された事は喜ばしい。

結語

自衛官生活三十四年四月、思う存分職務に精励する事が出来ました。陸上自衛隊を選んだことが結果として民生安定協力等それぞれの地域の方々と直接する事になり素晴らしい人々との出会いに恵まれることに

榛本 光人

〒530-0044 大阪市北区東天満 二丁目五番三号 電話 〇六―六三三―五八一七二三

関西防衛を支える会 常任理事

石田 吉末

〒583-0991 大阪府南河内郡太子町春日 九八番地七二号 電話(〇七二)九八二八〇七番 PHS〇七〇一五〇三四一五五八四

ビジネス イン ナンバ

〒556-0011 大阪市浪速区難波中一―一―二 TEL(〇六)六六四四一七七七 FAX(〇六)六六四四一七七一〇

飲む野菜!! サンプル送呈

大阪遠藤青汁普及会

〒553-0006 大阪市福島区吉野四―一―二 TEL(〇六)六四六二二二二四 FAX(〇六)六四六二二五八二四

